

中新田城跡 (なかにいだじょうあと)

所在地 宮城県加美郡加美町字北町

指 定 加美町指定史跡 昭和 53 年 3 月 31 日

概 要

斯波家兼は足利尊氏の一族で、今より 650 余年前に奥州深題に任命されます。当地の伝承では、中新田城は家兼が奥州入りして間もなく築かれたとされていますが、最近の研究では 15 世紀初めの応永年間以降に築かれたと推定されています。

本城は、東西約 320m、南北約 250mの大きさで、方形の堀を二重に回らせた、いわゆる「回字式城郭」と呼ばれる形状をしています。内堀の中は 100m四方の方形を呈し、発掘調査では多くの柱穴、溝、土坑、井戸などが発見されています。

戦国時代末期、天正 16 年（1588）の大崎合戦では、中新田城の城代南條下総が伊達軍を打ち破りました。しかし、天正 18 年（1590）の奥州仕置によって、伊達政宗と蒲生氏郷が大崎領占領のため中新田城は接收されました。その後大崎・葛西一揆が起こり、その結果翌年にはさらに第二次の仕置が実施されて、厳しい検地と城郭の破壊が行われたので、おそらくこの時点で中新田城は姿を消すことになったと考えられます。

かつて城内には長福寺という大崎氏の祈願寺がありましたが、大崎氏滅亡とともに廃寺となりました。慶長 16 年（1611）に寺を再興するため、仙台の真言宗龍宝寺実済法印は城跡に八幡山長興寺を中興開山し、現在に至っています。

